

受け継がれる七尾魂



創業：平成4年

花園陽一商店

花園 恭輔 さん



創業：昭和33年

多村建具製作所

多村 正則 さん

小学生の頃を振り返ると、父は朝早くから仕事に出かけていたため、起きてもいないという毎日。そうやって、父が頑張っている姿を見て育ったからか、もともと地元の七尾で働きたいという意思と助けになりたい、何か力になれればという気持ちで、大学を卒業する時、「一緒に働きたい」と父に申し出た。七尾の魚はどこにも負けない鮮度がある。今は、それを市外の人に届けたい、知ってもらいたいという気持ちで、仕事をしている。子どもの頃から市場へ連れて行ってもらったり、そこで働く人たちと話したりしていたので、人付き合いがやすかったのも父のおかげだ。

起床は毎朝4時。慣れるまでが大変だった。最初は怒られてばかりだったが、今はだんだん自信も付いてきて、周りからも信頼されるようになってきたと思う。朝、取引先と連絡しながら、注文を受ける忙しい時、「仕事しとるなあ」と感じる。それが、次の日のモチベーションにもつながっていると思う。父からは、「少しずつ積み上げてきた信頼も、崩れるのは一瞬」と、今でも言われている。父が培ってきた信頼を裏切らないよう、これからも努力していく。

小学生時代から父の背中を見ていた。作業場に行くと、木の切れはしがたくさんあったので、遊びながら物作りを学んだような気がする。建築の専門学校を卒業。人の下に付いて働くより、自分で何かやりたかったので、父親がやっていた建具製作所に就職。今思えば、亡くなった父も、仕事を継いでほしいという気持ちがあったと思う。教わったのは、基本的な木の見方や道具の使い方など。カンナを使う時、「それじゃダメやぞ。引くときに力入れよ」と声を掛けられたことが思い出にある。田鶴浜建具のすごさは何と言っても親子。全国でも指折りの技術だと自負している。

新しいものを生み出せる、自分が思い描いた物を形に出来る喜びが、この仕事にはある。できるだけ注文は断らず、実現しようとして努力している。商品を渡した時の「ありがとう」という言葉と笑顔が一番うれしい。注文があるのは、木のぬくもりを求めている人がいるということだが、田鶴浜建具も担い手不足。伝統を守っていきたい、次につなげていきたい気持ちももちろんある。私は、守っていくのはその技術だと思う。これまでの技術をさらにアレンジして、新しいものを作るのが私の役目。それが、田鶴浜建具を守ることに繋がると信じている。

外からみえる七尾のよさ

日本には、いろいろな田舎がある中で、七尾市を選んだ人たち。そんな人たちから見た「七尾」を語っていただきました。



高校時代を福井県敦賀市で過ごし、日本海側の自然の豊かさに惹かれ、移り住みたいと考えていた。そんな時、インターネットで知ったのが七尾市。コンパクトで住みやすく、大きな病院もあり、子育てに向いている。また、海の幸がとてもおいしい。子どもはぜんそく気味だったので、回復。海も山も近く、冬には雪も見られ、子育てには打って付けの場所です。最近、子どもが七尾弁を話すように。私も負けずに、周りと親しくなつてまちづくりに貢献したい。



東日本大震災が、生活を見直すきっかけになり、姉夫婦が移住していたこともあって七尾市に。能登島の人とはとても親切。2回目に会ったときには、知り合いみたいに話し掛けてくれ、とても驚いたのと同時にうれしかった。また、5月のある日、能登島全体の緑が一斉に映え、前の日と全然違ったイメージになった時は自然の豊かさを強く感じました。外から来た人にとっても、とても魅力的なところが、七尾市にはたくさんあると思います。



仕事で金沢にいた頃から、能登の風土や食文化に魅かれていました。定年を迎えてから七尾市へ。立派な病院やスーパーもたくさんあって、日常の生活には困りません。休日は、七尾城や山の寺院群などを散策して歴史探訪するなど楽しみも増えました。なかでも夢中なのが、地元野菜を使って、料理すること。何となく、季節を感じさせてくれる食材が豊富なのが素晴らしい。私が思う七尾の一番の魅力です。



東京でぜんそくが悪化し、これ以上暮らせないと思いました。治すためには、新鮮な空気とおいしい食べ物が必要だと考え、田舎暮らしを決意。七尾は、食べ物がとてもおいしく、景色も最高。向田の火祭では、快く手松明を渡してくれたり、奉燈も担がせてもらったりと、人の心が温かく本当にうれしかった。都会にはないものばかり。ここは、食文化が豊かで、昔から地域に根付く文化もある。無意識でも、誇りを持てる暮らしをしている人々は素晴らしい。

癒し堂はぐらランドを開業
(相生町・リボン通り)

熊谷 隆広さん

宮城県仙台市出身

イラストレーター
(能登島曲町・能登デザイン室)

本田 有希子さん

宮城県角田市出身

スキニアーム
(西三階町)

野間 仁さん

神奈川県横浜市出身

農業組合法人 NOTO・SUN
(赤浦町)

藤中 学さん

石川県小松市出身